

## 報 告

# 神奈川県小田原市における コウノトリ *Ciconia boyciana* の観察記録

加藤ゆき・川合英利・重永明生

Yuki Kato, Hidetoshi Kawai and Akio Shigenaga: An observation record of  
Oriental stork *Ciconia boyciana*, at Odawara City, Kanagawa, Japan

## 緒 言

コウノトリ *Ciconia boyciana* はコウノトリ目 Ciconiiformes コウノトリ科 Ciconiidae に属する全長 110 cm, 翼開長 200 cm の大型の鳥類で, 国の特別天然記念物に指定されている。ロシアの極東南部と中国の東北部で繁殖し, 中国の主に揚子江中流域や韓国, 台湾, 日本等で越冬する (大迫, 2014)。本種は世界的に個体数が少なく総生息個体数は 1,000–2,500 羽程度と推定され, IUCN のレッドリストで Endangered と評価されている (IUCN, online)。また, 環境省が発表したレッドリスト 2020 では, 絶滅危惧 I A 類に選定されている (環境省, online)。

コウノトリは, かつて日本では一年を通して見ることが出来る留鳥で, 江戸時代の諸国の物産帳や図譜等の記録 (大迫, 2012) によると, 東北地方から九州地方まで広く繁殖していたと考えられている。しかし明治時代に入り, 一般人による狩猟の影響や生息環境の悪化に伴い生息数は激減した。その後, 非狩猟鳥や天然記念物に指定され生息数は増加したが, 第二次世界大戦中の営巣木の伐採, 戦後の有機水銀を含む農薬使用の影響によって生息数は再び減少し, 1971 年には最後の野生個体が捕獲され日本での野生個体群は絶滅した (大迫, 2012)。それ以降は, 大陸から迷行したと考えられる野生個体が各地で記録されている (日本鳥学会, 2012)。

一方で, 飼育による生息数増加の試みは 1951 年以降, 神戸市立王子動物園をはじめ東京都恩賜上野動物園, 大阪市天王寺動物園等で進められてきた。当初はまったく雛が生まれなかったが, 1988 年に東京都多摩動物公園が日本で初めて繁殖に成功した。1989 年には兵庫県が, 友好関係を結んでいた旧ソ連のハバロフスク地方から寄贈された個体を使って繁殖に成功した。以後, 大阪市天王寺動物園等も含め, 国内での飼育施設では順調に個体数を増加させている (大迫, 2012)。

兵庫県では飼育下での生息数の増加を受け, IUCN

guidelines for re-introductions (IUCN, 1998) に準拠してコウノトリの野生復帰事業をすすめ, 飼育施設で繁殖をさせた個体を 2005 年から野外に放してきた。2008 年には放鳥個体の野外での繁殖も確認され, 2020 年 10 月 13 日現在, 豊岡市を中心に全国各地で 221 羽が確認されている (兵庫県立コウノトリの郷公園, online)。

今回, 栃木県小山市の人工巣塔生まれのコウノトリ 1 羽を神奈川県小田原市の酒匂川で観察したので, ここに報告する。なお, 確認場所の周辺地域では過去に本種の確認情報があり, 今後も飛来の可能性がある地域だと考えられる。本種はカメラマンやバードウォッチャーに人気が高く, 飛来時には多くの観察者や撮影者が集中することも多く, 地域住民に迷惑がかかり対象個体にもストレスを与える恐れがあるため, 詳細な地名は明らかにせず河川名の記載にとどめる。

本報告に掲載した画像は, すべて神奈川県立生命の星・地球博物館の鳥類アーカイブズ資料 (KPM-NQB) として登録した。

## 結果と考察

### 種の同定と観察状況

観察初日である 2020 年 10 月 14 日午後 4 時 10 分頃, 筆者の一人である川合が酒匂川の低水敷で大型の鳥類 1 羽を発見した。頭部から体の上面と下面にかけて白色で風切羽が黒色, 足が長く赤色であった。これらの特徴を持つのはコウノトリまたはシュバシコウ *Ciconia ciconia* であるが, 嘴が太く黒色であることからコウノトリと同定した。観察は双眼鏡及び望遠鏡で行い, 撮影機材を持ち合わせていなかったため画像記録を撮ることができなかった。発見時, 低水敷の中州でカラス類にまわりつかれていたが動じていなかった。その後, 小さく飛翔しダイサギ *Ardea alba* やコサギ *Egretta garzetta*, アオサギ *Ardea cinerea* 等のサギ類とカワウ *Phalacrocorax carbo* が群れをなしている別の中州に移動した。サギ類やカワウ



図1. 酒匂川でサギ類とともに休息をするコウノトリ. KPM-NQB 710. 2020年10月15日, 小田原市, 重永明生撮影.

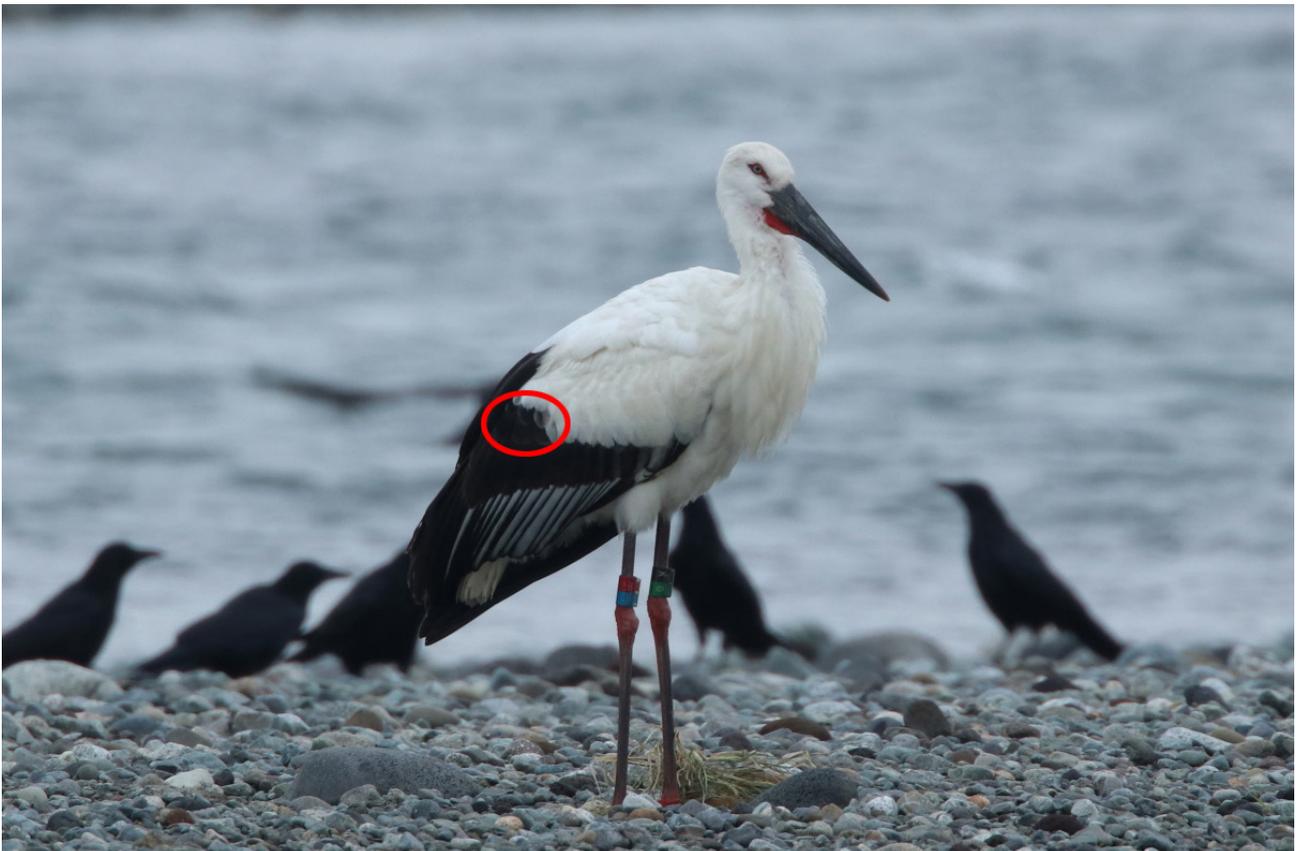


図2. 中州で休息するコウノトリ. 本個体の中雨覆の一部には幼鳥の特徴である黒色 (○) が見られた. KPM-NQB 709. 2020年10月15日, 小田原市, 重永明生撮影.

は飛び立たなかったものの、羽繕い等をしながらゆっくり動く本個体を中心に、同心円を拡げるように歩きながら遠ざかっていった。コウノトリは羽繕い等をしながらゆっくり動いていた。午後4時40分頃、暗くなってきたので観察を終了した。この時、本個体は中州で休息をしていた。この個体には、右脚に赤と青、左脚に黒と緑のカラーリングがつけられていた。

筆者の一人である重永は前述の情報を参考に探索し、翌日10月15日午前5時30分に約80羽のダイサギやチュウサギ *Ardea intermedia*, コサギ, アオサギと共に酒匂川の低水敷で休息しているコウノトリ1羽を発見した(図1; KPM-NQB 710)。この個体には、前述と同様のカラーリングがつけられていた(図2; KPM-NQB 709)。ここは、川合が14日に本種を観察した場所とほぼ同じであった。この個体は時々羽繕いを行い、午前6時頃には低水敷から上流に向かって探餌しながら歩いて移動した。その後、飛翔による移動や歩行しながらの探餌を行った。探餌は頻繁に行っていたが、飲み込み行動は一度も観察できなかった。午前6時50分頃に中州へ移動し、木の枝を嘴でくわえて上に放り投げるといった動作や休息、羽繕いを繰り返し行った。午前8時頃に中州から飛んで右岸河原へと移動し、加藤が観察に加わった午前8時10分頃には同所で羽繕いを継続して行っていた。そして午前9時頃に河原から飛び立ち、旋回しながら上昇し下流へ移動、そのまま南南西方向に旋回飛翔し、午前9時15分頃に建物に遮られ姿を見失った。その後、重永が酒匂川や周辺農耕地、早川河口等を見回したが、確認することはできなかった。川合も午前7時30分頃に同地に行き河原に立つ本種を確認したが、午後4時10分頃に再度行った時には確認できなかった。

10月14日と15日に確認された個体は、カラーリングにより同一個体であることは明らかである。確認した滞

在期間は10月14日午後4時10分頃から15日午前9時15分頃まで、14日夕方と15日早朝ともに確認した低水敷をねぐらとして利用したと思われる。

### 個体の特徴と由来

今回観察された個体の風切羽は、初列から三列に至るまで茶褐色がかった黒色、中雨覆の一部に黒色が入り、脚全体がくすんだ赤色をしていた(図2)。以上の特徴から、当年生まれの幼鳥と判断した(松本私信; 兵庫県立コウノトリの郷公園, online)。また、脚にカラーリングを付ける標識方法は、鳥類を野外で個体識別するために導入される手法である。埋め込み式のマイクロチップや施設名を記した金属製の足環等で管理されている動物園等の飼育由来の個体とは考えにくい。そのため、前述の野生復帰事業による個体と推測した。

放鳥個体情報を管理している兵庫県立コウノトリの郷公園が公開している「足環カタログ」によれば、前述の特徴を持つのは栃木県小山市の人工巣塔で2020年5月30日に生まれたオスの幼鳥個体で、「J0329」である(兵庫県立コウノトリの郷公園, online)。そこで、目撃情報を同公園に写真とともに送付したところ、この個体は「J0329」である旨の返信をいただいた。コウノトリ市民科学(online)によると、本個体は2020年10月11日に栃木県小山市で確認されており、同腹の「J0328」とともに水田で採食していたとの報告が見られる。その後、10月26日に兵庫県明石市の住宅地にある鉄塔で観察された。

「J0329」は、千葉県野田市で放鳥された「J0128」と徳島市の巣塔生まれの「J0181」との間に生まれた個体で、2005年9月に兵庫県豊岡市のコウノトリの郷公園で最初に放鳥された「J0296」の第3世代にあたる個体である(図3)。

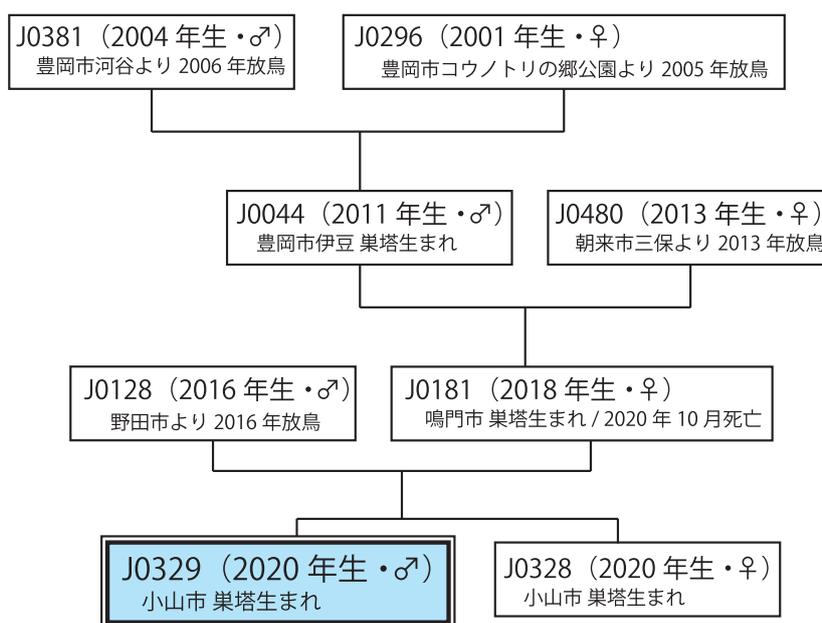


図3. J0329の系譜. 兵庫県立コウノトリの郷公園(online)を参考に作成.

表 1. 2020 年 10 月 1 日現在の神奈川県でのコウノトリの確認状況. 野田市 (online) による情報は, 公開されている地名をそのまま記した

確認日	場所	羽数	由来と個体番号	引用
2014/3/6	湯河原町吉浜	1	放鳥由来・個体番号不明	加藤 (2016)
2014/10/12-15	藤沢市今田 横浜市泉区・戸塚区	1	豊岡市で放鳥・J0481	宮地 (私信) 日本野鳥の会神奈川支部 (2020)
2015/9/16	厚木市岡田	1	野田市で放鳥・J0115	大橋 (2015)
2015/9/16	平塚市付近	1	野田市で放鳥・J0115	野田市 (online)
2015/9/17	相模原市付近	1	野田市で放鳥・J0115	野田市 (online)
2015/9/22	鎌倉市稲村ヶ崎	1	不明	日本野鳥の会神奈川支部 (2020)
2015/9/28	相模原市付近	1	野田市で放鳥・J0115	野田市より情報提供
2015/9/30	鎌倉市稲村ヶ崎	1	野田市で放鳥・J0117	日本野鳥の会神奈川支部 (2020)
2015/9/30	秦野市	1	野田市で放鳥・J0117	タウンニュース秦野版(2015年10月8日号)
2015/10/1	南足柄市付近	1	野田市で放鳥・J0117	野田市 (online)
2016/10/25	厚木市付近	1	野田市で放鳥・J0128	野田市 (online)
2016/10/25-11/1	伊勢原市付近	1	野田市で放鳥・J0155	野田市より情報提供
2016/10/31	厚木市付近	1	野田市で放鳥・J0128	野田市 (online)
2017/12/4	平塚市付近	1	野田市で放鳥・J0116	野田市 (online)
2017/12/5	小田原市付近	1	野田市で放鳥・J0116	野田市 (online)
2018/2/13	川崎市付近	1	野田市で放鳥・J0128	野田市 (online)
2018/2/18	小田原市	1	豊岡市巣塔生まれ・J0158	タウンニュース箱根・湯河原・真鶴版 (2018年3月10日号)
2018/3/15	平塚市付近	1	野田市で放鳥・J0127	野田市 (online)
2018/3/15	開成町付近	1	野田市で放鳥・J0127	野田市 (online)
2018/3/22	横浜市	1	野田市で放鳥・J0127	野田市 (online)
2018/7/11-8/14	伊勢原市付近	1	野田市で放鳥・J0155	野田市より情報提供
2018/9/13	平塚市・寒川町付近	1	野田市で放鳥・J0127	野田市 (online)
2018/9/13	横須賀市付近	1	野田市で放鳥・J0189	野田市 (online)
2018/9/17	厚木市・相模原市付近	1	野田市で放鳥・J0127	野田市 (online)
2018/9/17	大和市付近	1	野田市で放鳥・J0189	野田市 (online)
2018/10/15	開成町・松田町付近	1	野田市で放鳥・J0128	野田市 (online)
2018/10/18	厚木市付近	1	野田市で放鳥・J0127	野田市 (online)
2018/10/21	三浦市付近	1	野田市で放鳥・J0117	野田市 (online)
2018/11/2	海老名市付近	1	野田市で放鳥・J0155	野田市 (online)
2019/1/22	逗子市付近	1	野田市で放鳥・J0127	野田市 (online)
2019/2/17	開成町付近	1	野田市で放鳥・J0127	野田市 (online)
2019/2/19	開成町付近	1	野田市で放鳥・J0127	野田市 (online)
2019/2/20	開成町付近	1	野田市で放鳥・J0127	野田市 (online)
2019/4/1	相模原市付近	1	野田市で放鳥・J0127	野田市 (online)
2019/4/1	小田原市付近	1	野田市で放鳥・J0116	野田市 (online)
2019/9/19	開成町・大井町付近	1	野田市で放鳥・J0155	野田市 (online)
2020/2/3	横浜市港北区付近	1	野田市で放鳥・J0127	野田市 (online)

## まとめ

神奈川県では、2014年に湯河原町で本種1羽が確認されて以降、観察記録が少しずつ増えてきている（大橋, 2015; 加藤, 2016; 日本野鳥の会神奈川支部, 2020; コウノトリ市民科学, online)。また、野田市で放鳥された個体はアルゴス衛星追跡システム（PTT）により移動をモニタリングされており、飛翔による長距離移動をしないと推測される早朝または夕方に確認された地域を市町村単位で公開している（野田市, online)。それらのデータを合わせると2020年10月1日現在、県内では37例の滞在及び飛翔が確認された（表1)。これらのうち、同一個体が同一地域で継続して観察されたのは3例で、2014年10月12日から15日にかけて境川流域に点在する今田遊水地（藤沢市）、下飯田遊水地、俣野遊水地（いずれも横浜市）を「J0481」が利用した観察例が報告されている（宮地私信; 日本野鳥の会神奈川支部, 2020)。その後、PTT情報により伊勢原市周辺で「J0155」が2016年10月25日から11月1日までと2018年7月11日から8月14日にかけて確認された（野田市より情報提供)。

また、鎌倉市や厚木市、秦野市で飛翔による移動途中の個体が確認されている（日本野鳥の会神奈川支部, 2020; コウノトリ市民科学, online)。これらのほか、個人のブログ等に写真とともに観察記録がみられるが、滞在期間については触れられていない。野田市（online）によると、滞在記録（表1）以外にも、地域間の移動の際に県内を通過している個体があると推測される。しかし、現在のところ県内での越冬や繁殖の報告はない。

放鳥された個体のなかには移動先に定着し、繁殖を行うものも報告されている（兵庫県立コウノトリの郷公園, online)。江崎(2019)は本種の野生復帰の必須要件として、生息地での餌の確保を挙げている。本種は主に肉食性で、河川や水路、水田、草地等において魚類や両生類、爬虫類のほか、昆虫やミミズといった小動物など水生・陸生を問わず、口に入る動物であればほぼ何でも捕食する（田和ら, 2016)。実際に、2014年に境川周辺の遊水地に滞在した「J0481」は、今田遊水地にあるピオトープで魚類や哺乳類、アメリカザリガニ、ミミズ等を捕食した（宮地私信)。

これまでの県内への飛来状況から、コウノトリが相模川や酒匂川、境川といった河川や周辺の農耕地を生息候補地として認識している可能性は高い。神奈川県内で本種が定着できるのに十分な餌資源を有する地域の有無については、現時点で議論できる材料は少ないが、今後の飛来状況の蓄積によってそうした点も明らかになると考えられる。

## 謝辞

2014年に境川周辺で確認されたコウノトリの動向について情報をお寄せいただいた公益財団法人神奈川県公園協会の宮地知之氏、本種の年齢の識別点や放鳥個体の由来、動向についてご教示いただいた兵庫県立コウノトリの郷公園の松本令以獣医師をはじめとしたスタッフの皆様、野田市の放鳥個体の情報を提供していただいた野田市みどりと水のまちづくり課自然保護係、本稿をまとめるにあたりご指導、ご助言を頂いた秋山幸也氏と編集委員会の皆様に感謝の意を表す。また、本稿の一部で利用したコウノトリの確認データは、「コウノトリ市民科学」及び「野田市 Web サイト」を参考とした。この場を借りてお礼申し上げる。

## 引用文献

- IUCN, online. Oriental Stork *Ciconia boyciana*. The IUCN Red List of Threatened Species. <https://www.iucnredlist.org/species/22697695/131942061>. (accessed on 2020-October-22).
- 江崎保男, 2019. 野生復帰とハビタット整備. 日本鳥学会誌, **68**(2): 181.
- 兵庫県立コウノトリの郷公園, online. 兵庫県立コウノトリの郷公園. <http://www.stork.u-hyogo.ac.jp/index.php> (accessed on 2020-October-23).
- IUCN, 1998. IUCN guidelines for re-introductions. 11 pp. IUCN, Oxford.
- 環境省, online. 環境省自然環境局野生生物課, 2012. 鳥類. 環境省レッドリスト 2020. <http://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf> (accessed on 2020-October-22).
- 加藤ゆき, 2016. 神奈川県湯河原町におけるコウノトリの観察記録. 神奈川自然誌資料, (37): 59–60.
- コウノトリ市民科学, online. データ公開. <https://stork.diasjp.net/guest/> (accessed on 2020-October-29).
- 日本鳥学会, 2012. 日本鳥類目録, 改訂第7版. 438 pp. 日本鳥学会, 三田.
- 日本野鳥の会神奈川支部編, 2020. 神奈川の鳥 2011–15 一 神奈川県鳥類目録Ⅶ-1. 685 pp. 日本野鳥の会神奈川支部, 横浜.
- 野田市, online. コウノトリ放鳥情報. <http://www.city.noda.chiba.jp/kurashi/oshirase/seikatsukankyo/1006581.html> (accessed on 2020-October-28).
- 大橋雅敏, 2015. コウノトリ. はばたき, (522): 8.
- 大迫義人, 2012. コウノトリの絶滅から保護・増殖, そして野生復帰. 日本鳥学会誌, **61**, Special Issue, pp. 91–93. 日本鳥学会, 三田.
- 大迫義人, 2014. コウノトリ. 環境省編, レッドデータブック 2014 一 日本の絶滅のおそれのある野生生物 2 鳥類, pp. 36–37. ぎょうせい, 東京.
- 田和康太・佐川志朗・内藤和明, 2016. 9年間のモニタリングデータに基づく野外コウノトリ *Ciconia boyciana* の食性. 野生復帰, **4**: 75–86.

加藤ゆき: 神奈川県立生命の星・地球博物館; 川合英利: 小田原市; 重永明生: 日本ツル・コウノトリネットワーク (受領 2020年10月31日; 受理 2021年1月21日)